

Obituary of the Late Mr. Kazuo OCHI

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yamamoto, Shiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00056395

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



at Mt. Asama show a tendency to bear a hair on style. In a single individual (B, C, I in table 2), there are found 2 types of style as to the hair. As noted by KITAMURA and MURATA (1974), it is not reasonable to establish a variety in *Rh. sanctum* according to the hair of style. The flower showing 6 loculi in ovary amount to 11.9 % of 59 flowers (table 3). All the other flowers (88.1%) are found to have 5 loculi. A carpel seems to exhibit a tendency to increase, contrary to the stamen.

A correlation is not found between any 2 out of the 4 objects studied at the present paper.

The author is thankful to Dr. K. YAMADA and Miss Ch. CHUMA for giving him facilities through the observation.

References

KITAMURA, S. and MURATA, G. 1974. Coloured illustrations of woody plants of Japan I. Hoikusha, Osaka.

KURITA, M. 1977. Some notes on the *Rhododendron* plants from Japan III. Jour. Geob. 25: 13-17.

NAKAI, T. 1932. Notulae ad plantas Japoniae & Koreae XLII. Bot. Mag. Tokyo 46: 603-632.

OHWI, J. 1975. Flora of Japan. Shibundo, Tokyo.

摘 要

ジングウツツジ (花葉の基本数5) にて、花冠裂片、おしべおよび子房室の数的変異と花柱における

Table 2. Number of style with and without hair in *Rh. sanctum*.

Hair on style	Individual												No. of flower (%)
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K		
+	11	7	4	21	3	0	0	0	11	10	6	73 (61.3)	
—	0	4	10	0	0	10	13	8	1	0	0	46 (38.7)	

Table 3. Number of loculus in ovary of *Rh. sanctum*.

Loculus of ovary	Individual						No. of flower (%)
	F	G	H	I	J	K	
5	10	11	8	11	10	2	52 (88.1)
6	0	2	0	1	0	4	7 (11.9)

毛 (肉眼でたやすく認められる) の有無とが調査された。

花冠裂片はすべての花で5片であった。おしべは5~10本まで変化し、10本をもつ花 (41.2%) と9本をもつ花 (33.6%) が他の花よりたいへん多かった。5室子房 (88.1%) と6室子房 (11.9%) がみられたが、同一個体で前記両子房をもったものもあった。有毛花柱は61.3%、無毛花柱は38.7%で、両花柱をもつ個体も認められた。

上述より、花冠裂片数は安定しているといえる。しかし、おしべは倍加して10本が普通となったが、それが減少の傾向を、子房室数は5より6へと増加の傾向を示すものとおもわれる。同一個体で有毛と無毛の花柱がみられるので、花柱の毛の有無により変種をつくることは妥当でないだろう。

○ 越智一男さんを悼む (山本四郎) S. YAMAMOTO: Obituary of the Late Mr. Kazuo OCHI

越智さん、あなたは今何を考えていますか。コケでしょうか、シダでしょうか、それとも博物館運営のことでしょうかあるいは植物調査の山歩きかも知れませんね。

かつて学校にお勤めの頃には、あなたの夢はいつも生徒のことであり、授業のことでしたね。そんな話を私は聞かされていつも感服させられたのはつい先日のように思えるのです。それはもう十数年も前の、四国カルスト総合学術調査でいっしょに植物を調べ歩いた時にはじまり、山やダム湖辺で、島や海辺で、思い出は数えあげればきりがありません。私は時々夢を見ます。今この原稿を仕上げていますが、実は昨夜の夢は、同志2、3名がどこかの山へ植物を調べに行ったのですが、その中の1人は元気な頃の越智さん、あなたでありました。

越智さんの研究は種子植物、羊歯植物はもちろん苔苔植物にまで及び、殊に戦後の1945年以降はコケ類に熱中して多数の標本を採集し、桜井久一氏に送って同定を乞い、当時桜井氏によって、その中から続々と新種が記載発表されたのでした。その功績は実に偉大でありました。

越智一男氏は昭和4年愛媛県師範学校卒、小学校勤務中に文部省中等教員検定試験 (植物) に合格、旧制女学校や新制西条高等学校に勤務されましたが、退職後西条市立博物館開館と同時にここに入られ、その運営に努力された。しかし、2~3年前より体調すぐれず、昨秋からは臥床がちで、遂に本年5月11日急性肺炎のため、70年の生涯を閉じられたのであった。ここに故越智一男氏の御人格と御業績の一端を述べさせていただきます、ご冥福をお祈りします。